

外務省在外公館技術派遣員 現職者に質問！！

◆ 在パプアニューギニア日本国大使館編 ◆

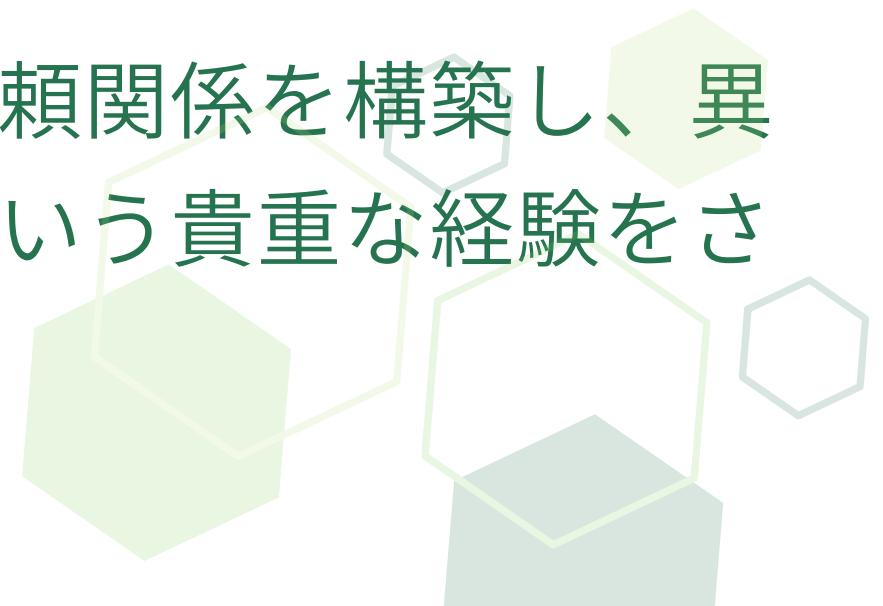


Q1. 技術派遣員として赴任される前のご経歴を教えてください。

A1. 製造業の電気メーカーにおいて、国内のみならず中南米および中国といった海外拠点を含む品質保証業務に従事し、市場品質対応をはじめ、自社製造・OEM・ODMに関わる製造品質の管理および改善を担当し、国や拠点の特性を踏まえた品質活動を推進していました。

海外拠点や協力会社との業務においては、文化・商習慣・品質意識の違いを理解したうえで、現場に入り込み、現地スタッフと直接対話を重ねながら品質課題の本質を共有することを重視し単なる指示や監督にとどまらず、改善の背景や目的を丁寧に説明し、理解した上で取り組んでもらうことで、継続的な品質改善と安定した製造品質の確保につなげてきました。

こうした直接現場での品質活動を通じて、海外拠点・協力会社との信頼関係を構築し、異文化環境下においても円滑に業務を進められるマネジメント力を学ぶという貴重な経験をさせて頂いたと思っています。



在パプアニューギニア日本国大使館勤務（60代、男性）

Q2. 技術派遣員に応募された理由を教えてください。

A2. この度の応募は二回目となります。

初回応募時には、これまで培ってきた専門性や海外での業務経験、また微力ながらの語学力を活かし、公共の利益につながる業務に携わりたいと考えておりました。その中で、在外公館における営繕業務という、私の専門である弱電分野とは若干異なるものの、建築・設備の保守および維持管理を通じて高い品質が求められる業務内容に強い関心を持ち、応募いたしました。

その結果、在ペルー日本国大使館にて約3年間、営繕業務に従事する機会をいただき、施設の安全性・機能性を維持するという公的施設ならではの責任と重要性を現場で学ぶことができました。

今回の二度目の応募につきましては、在ペルー日本国大使館での経験を活かし、さらに幅広い環境で貢献したいと考えたことが動機です。英語圏であり、施設規模や業務範囲も大きい在パプアニューギニア日本国大使館の募集を拝見し、自身の知見を一層拡大するとともに、これまで培ってきた品質意識と現場対応力を活かして挑戦したいと考え、現在に至っております。



Q3. 実際の業務内容はどのようなものですか？

担当業務は主に、建築物や各種設備（発電機システム、上下水道衛生設備、空調システム、火災報知システム、エレベーターなど）の保守・維持管理と協力会社及び現地職員の育成です。

日々の業務では、発生した不具合を迅速かつ確実に修繕することを重視しています。規模や内容に応じて、一般的な不具合は現場対応で処理しますが、高度な専門性を要する不具合については、本省営繕室本官技術者や新営当初の設計・施工・工事業者のサポートを受けながら、問題解決に取り組んでいます。

また、建築・設備業務以外にも幅広くサポートを行っています。具体的には、各種大型イベントでのテントやPAシステムの設営支援、衛星放送受信システムの障害対応、さらには庭木の剪定やペストコントロールの調整など、多岐にわたる業務に関わっています。

一方で、協力会社および現地職員の育成については依然として課題が残っております。各国ごとの文化や環境の違いに加え、十分な教育機会が確保されていない側面も否定できないと考えています。

このため、営繕業務にあたっては複数社から見積もりを取得し、実作業にも立ち会って確認・指導を行っておりますが、それでもなお、国有財産の修繕に求められる、いわゆる「当たり前品質」に近づけるには十分とは言えない状況であり、協力会社および現地職員の育成にも引き続き注力しております。



在パプアニューギニア日本国大使館勤務（60代、男性）

Q4. 実際に勤務して感じる技術派遣員の魅力とはどのような点でしょうか？

技術派遣員の魅力は、国の建築物や各種設備が外交業務に支障を来すことのないよう、セキュリティリスクを含めた視点で日々その機能を的確に監視・維持し、専門的知識と経験をもって実務面から支えられる点にあります。加えて、「さすが日本」と評価されるような国の“顔”としての施設を常に良好な状態に保つ役割を担えることは、公共性の高い使命と自身の専門性の発揮を両立できるものであり、大きな誇りと充足感を得られる点に強い魅力を感じています。

在パプアニューギニア日本国大使館においては、経年劣化等により発生する不具合の根本原因を的確に把握し是正すること、さらに将来的に障害が予見される設備についてデータを基に確認・分析を行い、未然防止に向けた計画を立案・実行する日々の活動は極めて重要であり、その責任の重さがやりがいへと直結しています。

また、協力会社との交渉や作業立会いの場面では、必要に応じて共に作業を行いながら作業品質について検討し、随時改善点を指摘しています。これにより、確実な作業完了が担保されるだけでなく、大使館が求める作業品質や考え方が業者側に共有され、作業手順や品質意識に前向きな変化が見られることも少なくありません。こうした変化が、結果として業者の業務拡大や技術力向上につながることを期待しています。併せて、大使館現地スタッフの育成にも寄与するものと考えています。

個人的には、これら一連の業務を通じ、日常的に現地関係者とやり取りを重ねることで、自身の語学力が僅かながらも向上していることを実感しており、その点もまた大きな喜びの一つです。